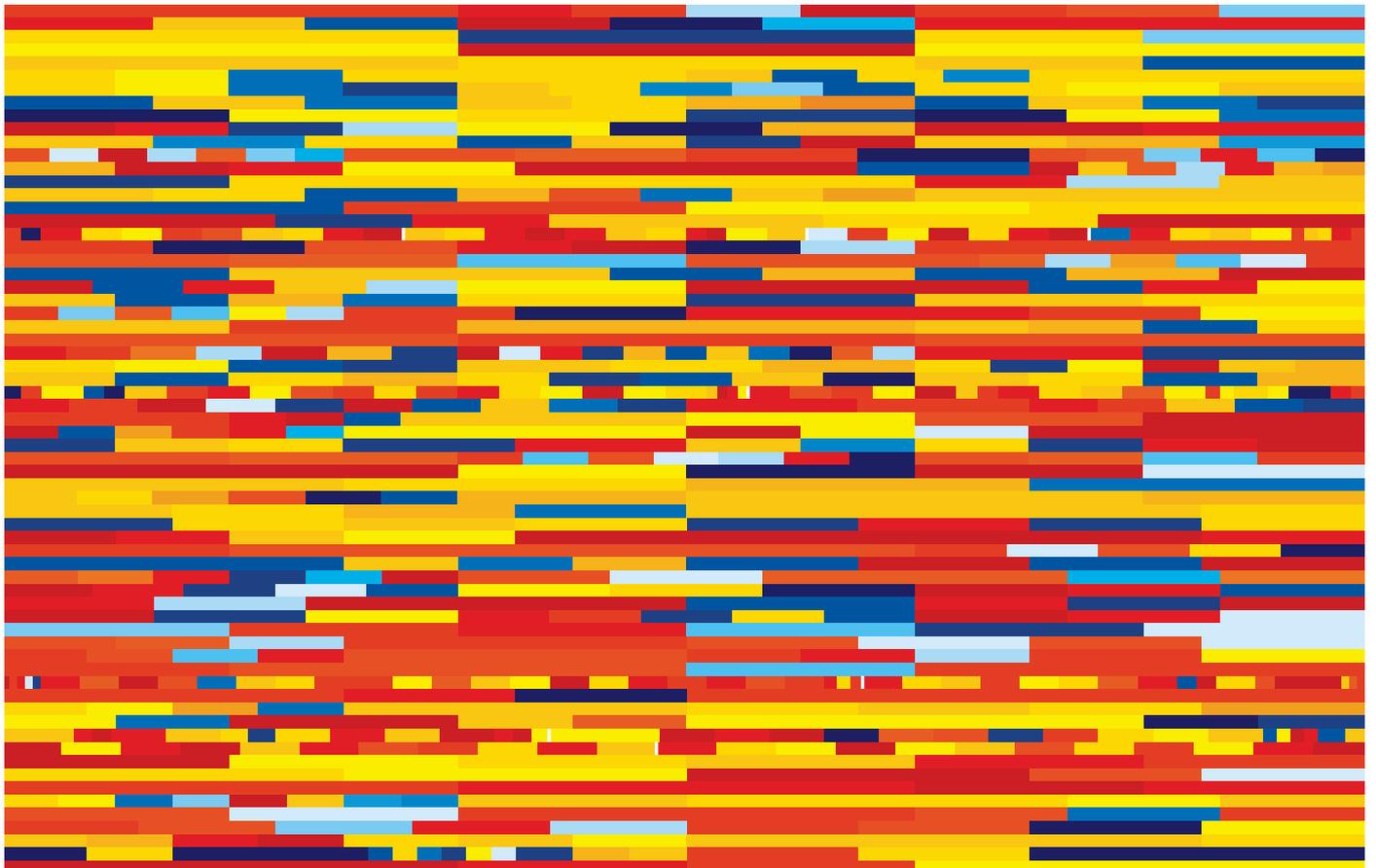


ゆるり

vol. 31



伊東昭郎著 「音楽史」調性によるカラー版、133人の作曲家1946曲より モーツァルトの作品を色で表現

特集

エッセイ

想いを本にする

Essay

● かけがえない日々 田添京子

● 折りふしの記 竹下純義

ひとりごと

● 一人言 イラストエッセイ集 小川法正

● 八月十日 森永正

● 「訓」「短詩」 森信興

■ 俳文写真集「すくやかなる日常」／村上伸

■ 歌集「霜花」／末吉英子

■ 記念誌シリーズ8「みのり会 百十周年記念誌」

■ 長崎版新聞紙上の坂本龍馬

■ 音楽史 調性によるカラー版、

133人の作曲家1946曲／伊東昭郎

■ 第2回 武蔵野美術大学校友会 長崎支部展



自費出版サロンゆるり

株式会社 昭和堂

「ゆるり」は長崎県内の主なコミュニティ
施設に無料で配布しています。

エッセイ集

かけがえのない日々

KYOKO TAZOE

田添 京子

長年、看護師として活躍され退職。昔から好きだった「書くこと」。綴られた文章は、残しておきたい日々の小さな暮らし、家族、人生で関わってきた大切な人たち、そんなかけがえのない日々だった。



愛犬ヒナと一緒に



いただいた たくさんのお手紙



子どもが小さかった頃の家族写真

エッセイ集『かけがえのない日々』を自費出版した。七月末に恩人、友人、知人などに贈呈し、高揚した気持ちはやっと少し落ち着きを取り戻している。

出版のきっかけ

自分の本を作るなんて夢のような話だった。考えるだけで厚かましい。でもパソコンに保存しているエッセイや、新聞投稿の切り抜きがたまっていくばかり。何とかしたい。目次を作り、製本して背表紙をつけてみようか。でもまだ慌てることもない、なんて思っていた。

しかし、ある日突然見た夢は鮮烈だった。自分が死ぬときを実感した生々しい夢は初めて。悲しみに胸が張り裂けそうなときに目覚め、いまだにドキドキ感が蘇る。明日の自分は保証されていない、したいことは後悔しないうちにと思った。七十歳ぐらいまですきたためからなどと考えていたが、その日が訪れるとは限らないではないか。

心が動き出し、ネット検索

でたどりついたのが「自費出版サロンゆるり」だった。初めての相談の日。知りたいことや疑問はすべて払拭された。とりあえず相談だけのつもりが、自費出版のイメージが明確になり、実現へ踏み出すことになった。

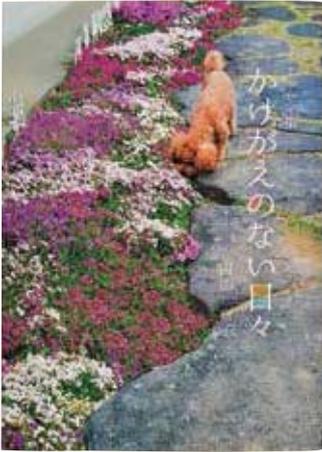
最善を尽くした一冊を

しかし、五冊ほど借りた自費出版本を見てまた不安になった。私のエッセイの質と量で、果たして厚かましく世間に出していいものだろうか。ゆるりスタッフからは、

「十分な量ですよ。ページ数も十分です。もう少し書き続けられてもいいし、今の時点での最善を尽くした本を出し、次はそれを超えるものを目指すのもいいですね」

そうだ。エッセイ教室の先生や新聞社の人以外に見てもらったことはない。多くの人に読んでもらえれば、また新たな視点を得られるかもしれない。今の時点の最善を尽くしてみようと決心できた。

借りた本には、手紙や写真も載っている。私にも生涯大



「エッセイ」
かけがえのない日々

田添 京子 さん
TAZOE KYOKO

- 判型:A5判 ● 製本:並製本
- 頁数:128頁 ● 定価:非売品

ほんのカバーは主人が精魂込めて育てた我が家の芝桜と愛犬ヒナの写真を息子が撮影

切にしている手紙がある。二十数年前、若くて生意気なくせに自尊心の低かった私を変容させてくれた、上司からの手紙だ。これを読んでもらえれば、私のように自己静観できる人が現れるかもしれない。日の目を見なかった手紙たちが、生き生きと語り出した気がした。

本づくりスタート

目次を作り、エッセイ一覧のファイルをゆるりに送る。五月中旬にはもう初校が届いた。胸躍る校正の作業。エッセイを推敲していく気持ちに少し似ている。本としての体裁が整いはじめた初校を、イラスト、写真の大きさ、配置、字のバランスなどを楽しみながら見ていく。各エッセイにまつわるエピソードは、特に伝えたい重要なものだ。それだけに本文より控えめながらも、読者に自然に読んでもらえる構成でありたい。

本のタイトルは『かけがえのない日々』と決めていた。娘は「ちよっと平凡」と言うが、これ以外に私の気持ちにぴたりとくる言葉は見当たらなかった。

スタッフの人が初めてわが家に来た日は、庭の芝桜が満開だった。色とりどりに咲き誇る花たちを見て、表紙にどうかと提案された。夫が丹精こめて育てた花。表紙を飾れば喜ぶだろう。たまたま写り込んでいた愛犬ヒナの画像は、生き物がいるというだけでか

かけがえのない日々感が増し、ヒナが花を愛おしんでいるかのようにも見えた。

出版の反響

出版後の反響だが、こんなに沢山の手紙やがきやメールや電話を短い期間にいただくことは、後にも先にもないだろう。これだけで本が一冊できそうなくらい、それぞれの言葉で思いが伝わってくる。人への褒め言葉など聞いたことのない口の悪い知人が、



たくさんの感想をもらって幸せです



堀田さんより本のお祝いにといただいた書

「二気読みした。よー書けとつた。お宅の旦那さんは、この通りの人間」と言ってくれたのには驚き。

ある友人は読み終えて闘病中の母親に見せたら、三分の一ぐらい読んだところで、「こんなに感動できる力が残っているのだから、私はまだまだ大丈夫ね」と言い、大事に枕元に置いてあるとのこと。私の想像をはるかに超え

た言葉。ただただありがたかった。

本を世間に出すとき、みな困るだけだ」と、夫が毎日言うので、私は気持ちに萎縮し、反響への期待値は下がりがつぱなでした。でも私が図に乗らないよう押さえてくれたのだと悟った出来事がある。我が家に本が届いた日、出版記念日のつもりで寿司を注文した。それが届いたとき、夫は玄関に積まれた段ボール箱をバリバリ

破き、寿司屋の奥さんに「読まんですか？」と本を差し出した。あら、内心では応援してくれていたんだと嬉しかった。くしくも贈呈第一号は寿司屋の奥さんになり、思い出す度に吹き出しそうな、顔がほころぶエピソードだ。

でも夫はいまだに読者の感想を、「八割方お世辞だ」と言って譲らない。

「二割で十分、読んでもらっただけで幸せ」と、私は返す。すでに二冊目のタイトルや挨拶文が浮かんでくる私。まだ一つも書いていないのにと、我ながらあきれている。



表紙裏に娘がご当地アイドル「ミルクセーキ」の衣装デザインした生地模様を使用

※現在、二冊目を出版準備中です。田添さんの執筆熱が一気に開花したようです。

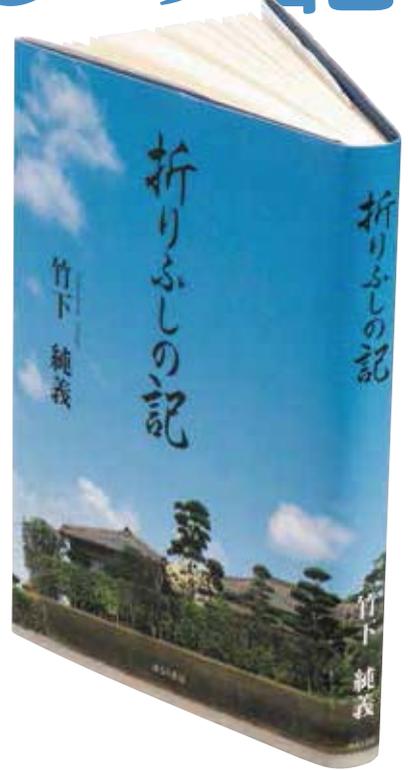


思い出の懐中時計

折りふしの記

竹下純義 著

- 判型:A5判
- 製本:上製本
- 頁数:220頁
- 定価:非売品



懐中時計

兄

「父が使っていた時計が見つかったが、叔父さんがもらってくれないか」と、姪が古ぼけた懐中時計をだしてきた。懐中時計の文字盤には算用数字で時刻が書いてあり、長針と短針が中央についている。その支点の下方には小さな円を描く秒針が取りつけてあって、中央の上部にはウオルサムとローマ字が読みとれる。そうして文字盤を覆うガラスには、内側からコーティングされているが、秒針の所が不恰好に剥けている。それから懐中時計にはメダルの付いた銀の鎖がはめてある。その小さなメダルの表には雪の結晶に源氏螢が一匹のついている絵柄で、裏には旧制大村中学校の校章に二本の白線があらわっている。たぶん学生帽をイメージさせたものであるろう。そうして卒業記念の文字がかすかに残っている。

懐中時計はこんな
に装備するのだと講
釈しながら、自慢気
にはめて見せた。私は、
兄が還暦祝にくれた
チョッキをたまたま着ていた。
それはオーダーメイドで生地は
あずき色である。

「そいば着てお参りしたけん、
その功德ばい」
と姉は言い、姪は、
「叔父さんが喜んでくれてよ
かったあ」
と涙ぐんだ。

この懐中時計は私たちの父が
愛用していた物で兄が小学校に
勤務したころ、父の形見にと母
が渡した物である。兄はたいへ
ん喜んでさっそくメダルをとり
つけズボンのおとしに入れ得意
気であったそうだ。

父は天折した。私が五歳の時
であった。
父についての記憶は、母や祖母、
また兄や姉の会話から形成され
た事ばかりだが、一つだけ鮮明
に覚えていることがある。

その時父は二階にいた。私は

父の所へ行こうと階段を上がつ
ていて、手に持っていた物を壊
し大目玉を食った。打たれはし
なかつたが、大変な見幕であつた。
それは父に褒められようとした
矢先の出来事であつた。
時が経ち、「お父さんがそんな
に叱つたのなら熱計りば割つ
たつじやなかつたらうかい」と
母が言うので、そのつもりになつ
て時は過ぎていった。

あの時、大目玉を食つたのは
この懐中時計ではなかつたらう
か、とつさに思った。

急な階段を三歳か四歳の私が
上る。薄暗い階段を、右手に懐
中時計を持ち、左手で階段を押
さえながら、上ばかりを見て一
段ずつ上っていく。なにかのは
ずみに垂れ下がった鎖を踏みつ
け、その拍子にしっかりと握つ
ていた懐中時計を落としてし
まったのだ。
その時の情景がありありと想
像できた。

分解修理に出していた懐中時
計が十日ぶりに出来上がつてき
た。秒針も確かに動いており、
少々難聴になつた耳にあてがえ
ば、時を刻む確かな音がした。
ところが喜んだのもつかの間、
翌日の昼ごろには止まつてし
まつた。多額の修理代を払い一
日で止まるとは何事かと、時計
屋へ車をはしらせた。陳列台越

しに受け取つた店主は、わざわざ
私の方に回つて来た。

「先生、こうしてネジを巻いて
もらわねば、時計屋も、どうに
もできません」とにやにやしな
がらネジを巻き終えて渡した。
私は啞然とした。

自動巻きの時計に慣れきつて
いた自分が恥ずかしくてほうほ
うの体で店を出た。

仲間に顛末を一部始終話した
ら、終戦時に満州へ進駐した口
シヤ兵そつくりだと大笑いされ
た。

私は毎朝「お早よう」と言い
ながら懐中時計のネジを巻く。
父から兄へ、そうして私が引き
継いだ形見の時計が今も時を刻
んでいる。長い間タンスの小引
き出しに眠つてはいたが、まさ
に二十世紀のすべてを刻んでき
たこの懐中時計がいとおしくて
ならない。

俳晋会報12号(平成十二年十二月)

■竹下 純義

昭和5年、南串山村で誕生。県立
長崎中学校(途中学徒動員・被爆)、
長崎師範学校卒業。昭和25年南串中
学校教諭を始まりに40年間教職に奉
じられる。

口ノ津中学校勤務の教職員仲間
で、学習と親睦を目的とした「俳晋会(し
んかい)」がありました。この度
この会の会報誌「生きているあかし」
に投稿した文章を中心に35編の作品
を「折りふしの記」として、年毎に
まとめられました。

「懐中時計」はこの中の一編

一人言 イラストエッセイ集

この度、息子、法正（のりまさ）が、「一人言（ひとりごち）」を自費出版しました。この本には、著者である法正のいろんな思いや、つぶやいた言葉が詰まっています。

書き始めのきつかけは、16歳の誕生日にプレゼントしたスケッチブックと水彩の具セットです。短い文からの始まりでした。

17歳の時「脊髄小脳変性症」と診断され、それからは「病」への思いも入り、絵や詩も加わり、いろんな形で自分を表現しました。

作品数が増えたのも、出会った方々のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。自分の思いを出す場をいただいたことで、認められることが自信につながり、描くことができました。

書き溜めた作品を「本」にする、と約束したもののようやく6年の月

日を経て、約束の本「一人言」が完成しました。

拙い書字ではありますが、言葉の一つ一つが、親に響きます。猫のイラストも、稚拙ではありますが、猫好きの法正には大事なページです。

避けて通れない病気のこと。我が子は、SCA3型です。「遺伝」

に関して「法正の場合」として状態を書くことで、少しでも周りの人に分かってもらえたら、という切なる思いがありました。33歳になった法正、生きることを諦めないこととです。（母志穂）



小川法正 著
小川志穂 編

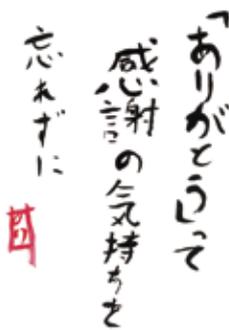
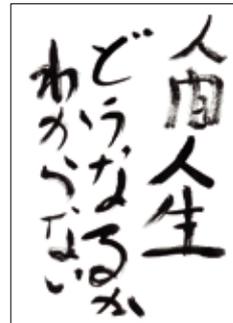
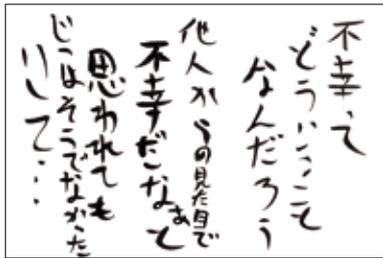
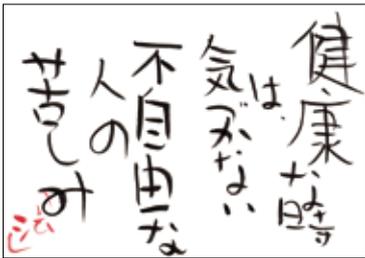
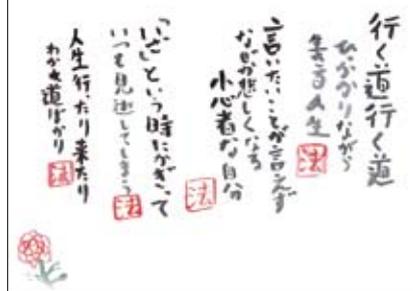
- 判型: B5判
- 頁数: 92頁
- 製本: 並製本
- 定価: 非売品



2015年 滋賀県長浜市琵琶湖のほとりにて



20歳のころ KTNギャラリーにて



■ 病気のこと

脊髄小脳変性症(SCM)は、運動失調などを主な症状とする進行性の難病です。

小脳が障害されることが多く、ふらつきや歩行困難、構音障害、書字困難、さらに排尿排便困難、眼振などの症状があります。下肢のつばりやふるえ、起立時の低血圧など、病型・患者によって様々な症状が見られます。患者数は全国で約2万7千人となっています。

厚生労働省の指定難病に含まれており、その交付件数から推定すると、有病率は10万人あたり18.6人と比較的高い神経変性疾患です。

全国SCMの友の会発刊「脊髄小脳変性症・多系統萎縮症Q&A 17」より



勉強したい一心で

中学を卒業して母と四人の弟妹との生活を続けていくには、私が働くことは必然の成り行きであった。電機会社に養成工として入った。

しかし、いつの頃からか学校に行つて勉強したいという気持ち、次第次第に頭をもちあげてきた。又目の前に厳然として存在する学歴社会。このまま一生この会社で働き続ける自分の姿を想像することができず、勉強したい、大学へ行きたいというあこがれみたいなものが強くなつていった。

夜間高校へ入ったものの働かざるもの喰うべからず、残業しなければ一家の飯が喰えず、半年で退学した。

それでも何とかしたいと一人で勉強し、文部省の大検を受け、二十歳で合格した。しかし生活が厳しいことに変わりはなく、残業で勉強どころではなかったが、それでも大学へ行きたい気持ちは消えなかった。手段が見つからなかった。

そうこうしているうちに、大学に通信教育のあることを知った。自分としては、大学に行くなら理工系という漠然たる考えを持っていたが、通信教育でそんな過程のものではなく、文系しかなかった。そして独学で勉強する以上一つの国家資格をとれば大学卒業者と

八月十日

我が半生の備忘録

森永 正

- 判型:A5判
- 頁数:140頁
- 製本:並製本
- 定価:非売品



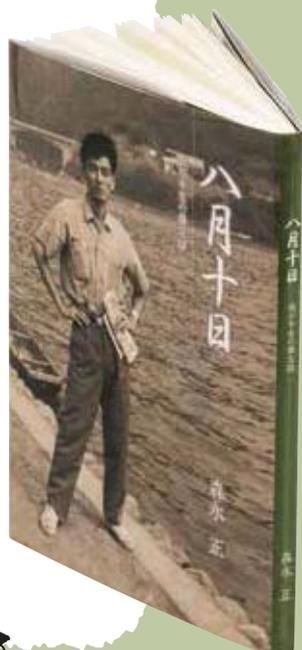
さて、入学したものの一年次のスクーリングに出席するためのレポートがなか

なか書けず、やっと書いて提出しても不可で返ってくる始末であった。会社も機械修理の仕事と全く関係ない法律の勉強をしている従業員にスクーリング出席をよく認めてくれたものであったと思う。今のリストラ時代には考えられないことである。

二年次になると、何とか二年次の科目を遅れることなく履修できるようになり、三年次の時は、四年次の科目もレポートは書いていた。四年次は余裕のあるレポート作成であった。

この頃は、一科目四課題レポートのうち、一通は参考書など見ずに六法のみ横に置いて、書いてみようと思うようになり、書いて提出しても合格点がついて返ってきた。

やがて司法試験に合格するために長崎で昼間働いて、夜勉強してもおぼつかない、だめだろう、何とか東京で勉強したいと思うようになり、とうとう四年次のスクーリングの途中帰省して会社へ八月十日に退職願を出して、辞めてしまった。この頃弟妹は一人前になっていたし、母の生活は弟に頼んだ。会社を辞めたものの合格の目的が



あったわけではない。人生の中の一つの流である。やめたことは全く後悔はなかった。これで一日中勉強できるといふ嬉しさが先であった。大学の図書館で勉強を始めた。退職したのはちょうど東京オリンピックの年であった。オリンピックが始まり、自衛隊機が五機、五色の煙の輪を吐いて東京の空を飛んでいたことを思い出す。それから四年間勉強してメキシコオリンピックの年に合格した。

■ 森永 正

昭和九年長崎市上筑後町生れ。昭和二十五年長崎中学校卒業。同年三菱電機製作所入所。三十九年退職。昭和四十三年司法試験合格。四十六年長崎市で弁護士開業、現在に至る。

本書は、これまでに新聞、会報、雑誌、記念誌などに寄稿した文章22編を一冊の本にまとめたものです。「勉強したい一心で」はこの中の一編。





「訓」

森 信興

- 判型…A6判
- 頁数…160頁
- 製本…並製本
- 定価…非売品

この二十年余り折りにふれて脳裡にうかぶこと、読書で感銘したことなどを「つづやき」と題してメモしてきました。エッセイあり、詩あり、雑多なものの中から短い文でいくらかメッセージ性のあるものを拾いあげてみました。感じてくれるものがあれば幸いです。

「淡々として…」
悩みがある時つづやいてみよ
H・11・3・13

「これは試練なのだ」
と思えば腹もたつまい
今だけに専念すると不安はない
H・14・10・4
H・14・11・5

心のバランスをとること
もう一人の自分に己を観察させるとよい
H・9・9・29

人に同情しても
自分に同情するな
H・14・12・4

一生のうち何人の人に喜んで
もらったか
それが問題だ
H・13・5・24

自虐につながる反省はしない
これでいいんだと思えばいい
そういうまわりあわせだったのだと…
H・13・4・1

H・13・3・10

黙想 熟慮はかりしては進歩がない
動いて 実践してみることにより脳の
血流がよくなり新たな発想ができる
H・12・11・5

より以上の大きい苦勞があることも
知らずして 苦勞しているなどと
思ってはならない
上には上の苦勞があるのだから…
H・12・10・16

衰えることのないやさしい心を
宿していないと
とっさの言動にでてこない
H・12・5・29

苦痛を感じる時
「今、この時自分は成長している」
と思え
H・12・5・8

夕映えが美しいように
私も美しく老いたい
H・12・3・15

今日の この一日こそ
あとになって「よかった」と感じられる
日なのだ 大切に生きよう
H・12・2・8

老いて要領が悪い分だけ
記銘力が低下した分だけ
時間をかけて 反復すること
H・11・10・11

この人から愛を受けない(感じない)のは
私がこの人に愛を与えないからだろう
H・11・8・18

一気に、完璧に、完全に仕上げよう
などと思ってはいけない
そうする為の時間を作りえず後に
のぼして結局何もできない
少しづつ積みあげれば必ず完成する
H・11・6・10

何からも 誰からも いつも
教訓を得る姿勢が必要である
H・11・5・24

しあわせだとか 不しあわせだとか
いうものは自分が決めること
怒りや喜びも自分の心になること
H・10・10・6

人の評価につながる言葉を慎め
褒めることは言っても
けなすことは言わなくていい
H・14・3・13

疑うと世界が暗くなり
心は益々悪くなる
H・10・5・3

信じることは大切なことである
しかし 人の言葉ほど
宛にならないものはない
真実は自分で確めるものだ
H・10・3・5

他人の幸福を素直に喜べる人間でいたい
H・9・5・20

俺が選んだ俺の道
どう生きようと悔いはない
たった一回だけの俺の道だから…
H・9・3・21

まず人の話を受け入れよ
富にも名譽にもこだわらない方が
静かに生きられる
H・14・9・26

黙々として肅々として自然を相手に
生きるという
そうすれば怒りも寂しさも羨望も
嫉妬もない
H・13・9・3

「この人には構えることなく話される、
だから好きだ」
偉ぶらず少しばかり馬鹿になれ
H・9・8・26

自分に育くまれていない
心がたくさんあることに
気付かなければいけない
H・9・1・27

「短詩」

森 信興

- 判型:A6判
- 頁数:160頁
- 製本:並製本
- 定価:非売品



父母のこと

博多人形師

父は博多人形づくりを生業としていた。小学校等で、家の職業欄があると、「博多人形製造」といささか誇らしく書いたものである。父は、彩色と読ばれる工程の職人で、素焼きの人形を受け取って色を付け、店頭で売れるような形にして、卸商の所へ持ちこむのである。当時はどこの家でも奥さんもまた労働力であり、彩色担当の家では仕事場の台の上に人形が二十から三十体並べられ、その前に二人並んで左手に人形、右手に絵筆を持ち、人形をまわしながら、唇に絵筆を当てて絵具の色合いや粘度を調

かき氷五円の頃の空のあを



整しつつ、仕上げていくのであった。作る人形は時々に応じて変化した。多分人気の高い売れ筋の人形が変わっていくのだろう、美人もの、布袋さんや般若面、子供ものなど、大体五十個ぐらい、同じものを一時に作っていた。人形は彩色の最後の面相が最も重要である。最

武士のひとり立てるや蟬しぐれ



俳文写真集 すくやかなる日常

村上 伸



●判型：A5判 ●頁数：72頁 ●製本：ガンダレ製本 ●定価：非売品

れられ、リヤカーに人形を積んで夜の柳橋を渡ったこともある。生活は楽とはいえなかった。一般の博多人形師は元々高収入の職業ではなかったし、人から頼まれて断りきれない性格もあったのだろう、父はボランティア活動に熱心で、地元消防団に入っていた。当時は密集した木造の家屋ばかりで、火事が多かった。火事を知らせるサイレンがなり響くと殆ど同時に、

手に持っていた人形を置いて、すばやく壁にかけてある消防着に着替え、それこそ脱兎のごとく走り出るのであった。彩色の途中で止まったものは当然母が面倒をみることになる。卸商への納入時期になると徹夜で仕事というのも多く、母は不満を持っていったようである。消防をやめたあとは防犯組合の役員である。本業の博多人形製造は、伝統工芸品ではあっても、芸術作品ではないから、収入は労働時間に殆ど正確に比例する。後年、父は消防への永年功労で勲章をいただいたが、母はやはり本業の博多人形で成果をだして欲しかった、とこぼすこともあった。人形づくりは、六十歳を少し越えたところ



かの夏に帰らむすべや 飛行機ぐも

村上 伸
昭和二十二年福岡市生まれ。諫早市在住。
「すくやかなる日常」序
われ文辞拙く詩歌に才なく書画の嗜みもとよりなけれど、如何せむ職半ば退きて刻を消すによしなし。ここに雑文凡句に興味ほどもなき初心の写真添え日常のあれこれ綴りて一書を作る。なづけて「すくやかなる日常」となす。けだしこれわが晩近の冀ふところ、又堅くはあらぬ信条なればなり。老いの一興慰戯なれば、とかくの評なく笑覧されよかしとしか云ふ。

空の青集めて咲くや露草は
瑠璃色ふかく荒地をおほふ

咲けよとの合図受けしやいつせいに
曼殊沙華咲く土手染めあげて

その街の素顔も見せて駅前
乱れず並ぶ朝の自転車

ころがれる蟬に触るればなほ跳き
ついと跳びのく余力の距離を

歳月を口にはすまじ
人形を創りつつわれは少女に戻る

常住まぬ家とはなりぬ夫婦雛
飾りて夫の任地へ向かふ

「山風を吸へば元気になる」といふ
夫と越えゆく多良の岨道

荷を減らし身軽にならむ
チャンスかと転居六度めの
荷造りをする



末吉英子 歌集

霜花

判型…四六判
頁数…188頁
製本…上製本

徳あまた幼にあれよと晴着縫ふ
「百徳の着物」の故事に倣ひて

膝に抱く孫の手をとりピアノ弾く
この児の母ともかかる日ありき

読むわれの声も潤みてゆくくんだり
ネルロの最期に児の涙する

休みなく児の出すなぞなぞ
難問にむかし教師の夫が手こずる

初めての寮生活を語る夜の
少年のこゑ電話にうるむ

北満の冬夜は零下に冷えつりのり
凍てしガラスに霜花咲けり

かじかめる指にて霜花描きし日よ
国民学校一年の教室

水葬を偶然見しは日本海
引き揚げ船の八歳の夏

日本海の暗き海原ゆさぶりて
葬送の汽笛胸にこだます

母子して父に心を残しつつ
引き揚げ船にて着きし舞鶴

捕虜の日の木匙ひとつを
持ち還り父はシベリアに
触れず逝きたり

「歌集」を編むという淡い希望が、
たくさんの方々のお力添えで
『霜花』としてまとまりました。

私が短歌を志したのは、五十歳を過ぎ
てからのことです。四十代始めの昭和五
十三年、離島の小学校に転勤になった私
は、小学校五年生の長男と中学校一年生
の長女を残して単身赴任しましたが、二
年後、家庭に戻ることを決意、二十年間
の教師生活に終止符を打ちました。人生
の大切な岐路となる進路を控えた子供た
ちに寄り添いたいという思いからでした。
その後、二人の子供はそれぞれの道に
向かって成長し、私には夫の転勤に従い
ながらの十余年が過ぎました。そして平
成二年、県北の佐々町に転居、それが私
の短歌の出発点となりました。

ここに載せた作品は、ほんの身巡りの
見聞に過ぎないものばかりですが、五十
代で始めたためにわが子の幼いころの作
品がなく、それが唯一の心残りです。そ
の代り二十余年の短歌生活の間に誕生し
た孫たちは、私に歌材のきつかけをくれ
る宝物のような存在となりました。

思えば、おぼろげな思い出として胸に
そつと咲かせていた旧北満の厳冬の霜花
引き揚げ船の中で見た水葬の光景など、
長年封印してきたものを表現できたのも
歌の力でした。中でも強く私の胸に去来
するのは、七十三歳で逝った父のこと
です。戦後四年間の言葉を絶するシベリア
抑留に耐えて帰還した父が、一家の再出
発のために全力を傾け私たち子供の成長
を見守ってくれた姿を、今にして表現で
きたのも、やはり歌あればこそでした。

■末吉英子

昭和13年諫早生まれ、八歳まで旧満州新京
撫順に育つ。元小学校教師、諫早市在住。「波瀾」
「あすなろ」同人、「あけぼの」会員、佐世保短
歌連盟理事、日本歌人クラブ会員。
第一歌集で430首を収載。

愛をつなぐ —百十年の歩みと感謝—



- 判型:A4判
- 頁数:110頁
- 製本:上製本、PUR製本



天本六神丸新聞広告(明治39年9月19日 東洋日の出新聞より)



明治25年頃の行商姿



長崎育児院第二教室(明治末)



託児所修了式集合写真(昭和10年3月)



初代理事長 天本 愛儀氏

昨年、社会福祉法人へみのり会様が百十周年を迎えられ、記念誌を発刊されましたので、ご紹介致します。

へみのり会の始まり

貧困による家庭崩壊、子供への虐待などの悲しい事件が、今も日々報道されていますが、今から110年ほど前の明治39年に、私財を投じて恵まれない子どもたちの養育に心血をそそいだ人物がいました。

へみのり会の初代理事長天本愛儀氏その人です。彼は、生後まもなく父親を失って後、たび重なる逆境の中で育ちました。明治17年、長崎でコレラが大流行し義父も感染する。華商から買い求めたけし粒のような丸薬がよく効きました。六神丸です。その効能に目をみはった彼は、

六神丸の行商を始め。その後難難辛苦の末に自家製造に成功。全国に「天本六神丸」として知れわたるようになり、多くの病苦を救う事となりました。

幾分の蓄財ができたので、自分の幼少の頃の苦勞を思い起こして、「何とかして恵まれないうちも子供を養い育て、社会に報いたい」と思うに至りました。長崎市十人町に「長崎育児授産所」を開設。しばらくして土地や建物など、当時のお金で五千円を寄附して財団法人を設立。名称を「長崎育児院」と改め、ここから福祉事業に専念してゆきます。



長崎育児院看板

大正から昭和にかけての長引く不況で法人の財源が不足し、事業運営に苦勞しながらも、暮らに困る庶民の生活を支えるために、無料の託児所、無料診療所、母子保護施設等の開設や、貧しいがゆえに進学できない子供たちへの育英事業にも力を尽くしてゆきました。

昭和2年、育児院の子どもた



長崎市平山町 みのり園グラウンド



夏祭り(あいこう園)



運動会(わかば保育園)



ゆうあいスポーツ大会(第二みのり園)



玉ねぎ収穫(長与保育園)



歓迎行事をご覧の両殿下(昭和44年)



三和みのり園 本館(昭和42年頃)



みのり会本部(長崎市十人町)平成18年、百周年の時に改修される



藍綬褒章受章を紹介した新聞記事(昭和62年4月28日 長崎新聞より) 写真は第三代理事長 天本 愛児 氏

子どもたちを
守り続けて

第二次世界大戦に突入し戦火が激しくなるにつれて、事業の継承がさらに難しくなってきました。第二代理事長天本美徳氏は、止む無く育児院を除くすべての事業を中止しました。育児院だけは戦禍を逃れて島原に疎開し子どもたちを守りました。

「どんな粗衣粗食にもへこたれない忍耐力を身につけていくつもりであるが、大勢の育児の食糧には困ったので且つ

ちを立派な住居で誇りを持って生活させたいと、私財を投じて鉄筋コンクリート造りの3階立ての白い建物が出来上がりました。(90年経過した現在も、みのり会本部として現役の建物です)



昭和29年頃 太陽寮(島原市)

昭和40年代以降、福祉制度の整備が進み、みのり会も、時代の要請や地域社会のニーズに応えるように、障害者関係施設、救護施設、高齢者関係施設、保育所など多種多様な施設が設立されてゆくと共に利用者の生活を豊た

又空襲の危険からも育児を守る必要があった島原安中のほうへ疎開させ現在に及んでいる(現在の児童養護施設太陽寮)。戦争中の困難な時でも社会事業を継続したのは父の意を体した私たちの強い信念によるものである」と当時のことを述懐しています。

戦後、社会も落ち着いてきた昭和35年、精神薄弱児施設みのり園開設。戦後みのり会の新たな福祉事業のスタートでした。42年には三和みのり園を開設。長崎国体があった44年には、皇太子殿下同妃殿下のご視察をいただく光栄に浴しました。両殿下は、歓迎行事や水浴、手芸作品などを終始笑顔でご覧になられ、利用者職員一同にとって忘れられない一日となりました。

新たな歩み

平成12年「社会福祉法」が施行されて、福祉事業の在り方を見つめ直す時代となりました。利用者の権利を擁護する取り組み、地域交流の推進、職員のさらなる資質の向上を図る等利用者第一とした事業運営と快適な環境づくりに努めています。

百十年前、初代理事長の恵まれない子供たちに寄せた思いから始まったみのり会は、平成28年4月現在、長崎県内二市一町において児童養護・保育所・障害・老人・救護など24の施設・事業所を運営するに至っています。



上空から見た三和地区の各事業所(長崎市布巻町・平山町)



節分会(三和荘)



新年会(伊王島)(グループホーム)



もちつき大会(平山友愛園)



みのり会文化祭(みのり園)



コスモドライブ(あいぎ荘)



水遊び(道の尾保育園)

出版本

ここでご紹介する出版本は、サロンゆるりまでお気軽にお問い合わせください。 2017年1月現在(税込額)



一ノ瀬 恵介・久嗣・裕士
**気づいた時が
出発点**
● 514円



幸夏 涼
神様からの贈りもの
● 1,296円



ひらた きくよ
きくちゃんの詩
● 1,296円



ひらた きくよ
**Vol.2
きくちゃんのうた**
● 1,620円



根本 千絵
キラキラ
人生を輝かせる
たった5つの大切なこと
「ごまなみ」
● 1,620円



長崎 幻の響写真館
● 2,160円



新刊紹介 NEW

昭和堂・ゆるりで
出版しました本の紹介



祈りと光の情景
～五島の教会とそのルーツ～ フォト歳時記Ⅳ



久保 進
● 判型: B5ヨコ
● 頁数: 256頁
● 製本: 無線綴じ
● 定価: 3,240円(税込)

ポエム
風の中のパトリーヌ



安田 一恵
● 判型: A5判ヨコ
● 頁数: 56頁
● 製本: ガンダレ製本
● 定価: 非売品

敬天愛人の系譜
鎮西学院人物伝



学校法人鎮西学院
● 判型: 四六判
● 頁数: 220頁
● 製本: 無線綴じカバー付
● 定価: 非売品

平成28年版 諏訪神事
「長崎くんち」取材記録



見えないものを伝える
土肥原 弘久
● 判型: A5判
● 頁数: 120頁
● 製本: ガンダレ製本
● 定価: 1,080円(税込)

お問い合わせ先 090-2500-0597 土肥原さんまで

松林 重宗
長崎を描いてわかる
● 2,160円



松林 重宗
松林重宗水彩画集
● 3,240円



田村 玉鈴
玉鈴 水墨画集
―墨色の千変万化に
魅せられて―
● 4,860円



辻 武男
歌集 筑後川
● 2,160円



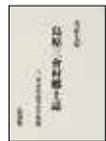
英文観光ガイド長崎
ハンドブック
長崎通訳研究会
● 600円
お問い合わせ先 電話〇九五―八二―五四八四



出口 輝夫
**昭和20年8月
長崎市地図**
● 540円



西村 仁
島原三會村郷土誌
大正七年(復刻版)
● 2,160円



吉田 幸男
塩飽史
江戸時代の公儀船方
● 2,700円



青山 敦夫
もう一人の少年使節
ドランド
● 1,200円



諏訪神事
長崎くんちのしくみ
土肥原 弘久
● 1,080円
(品切れ重版予定なし)



たゆたう(二)～(十) 松本 風作 ●各1,028円



平戸方言集



平松 恣
HIRAMATSU TSUTOMU
● 判型: A5判
● 頁数: 100頁
● 製本: ガンダレ製本
● 定価: 非売品



本の内容はホームページでもご案内しています [自費出版サロンゆるり](#) [検索](#)

長崎版 新聞紙上の坂本龍馬 発刊

発行：亀山社中ば活かす会 発行人：針屋 武士
著者：堺屋 修一 土肥原 弘久

平成29年1月15日発行 販売所／亀山社中資料展示場 長崎歴史文化博物館 好文堂書店(長崎市)



- 判型:A5版
- 頁数:152頁
- 製本:ガンダレ製本
- 定価:1,080円(税込)

亀山社中ば活かす会では、活動の一環として、長崎で発行された明治～昭和期の新聞各紙に掲載された「龍馬や幕末に関する記事」の調査を行ってきました。その中には、龍馬や長崎の幕末に関するさまざまな情報が含まれていました。本書は、同調査で収集した記事の中から、歴史的に興味深い事柄、話題性の高い事象、時代の空気を反映しているものなど46点を選び、これらをテーマ毎に整理し、関連の資料とともに若干の説明を加える形でまとめたものです。

今年(平成29年)は、幕末の風雲児・坂本龍馬の没後150年にあたります。これを機会に、明治以降の長崎人が新聞紙上で読んだ「坂本龍馬と長崎の幕末史」の世界に接していただきたいと思います。また、本書が長崎の幕末史・郷土史研究に資するものとなれば幸いです。

『長崎版 新聞紙上の坂本龍馬』の主な内容

本書では、まず、「序文」により「龍馬や幕末に関する新聞記事」の調査の目的とあらましを記すとともに、日本初の地方紙とされ長崎で発行された「崎陽雑報」の概要を紹介します。そして、同調査で収集された新聞記事の中から主なものの46点を選びテーマ毎に分類整理し、関連の資料と説明を加えました。

記録に留めない事相は、時代と共に消えてゆく性質を持っていますが、記録に留めた事相は、掘り起こさずすれば、古いものほどニュース的な価値を生み出すものです。この冊子は薄くとも、その資料としての価値は厚いと思うので、長崎における坂本龍馬・亀山社中・海援隊のことをより知りたい方々に大いに利用して頂ければ幸いです。

- 「崎陽雑報」について
- 坂本龍馬に関する記事
- 東洋日の出新聞掲載 坂本龍馬記事の詳細
- 海援隊・近藤長次郎に関する記事
- 志士達に関する記事
- 上野彦馬・大浦慶・グラバーに関する記事
- 伊良林・風頭周辺に関する記事
- 「長崎昔話」記事の紹介
- 丸山に関する記事
- 「一力」について



昭和10年4月27日付長崎新聞／長崎県立長崎図書館蔵

NBC ラジオ

斉藤絹子の
**モニタング
サブリ**

放送中
きてネ!!

『昭和堂笑顔のレシピ』
毎週金曜 あさ10:35より
あなたの本や作品を
ラジオで紹介します!!





音楽史 MUSIC HISTORY

調性によるカラー版、 133人の作曲家1946曲

伊東 昭郎
(いとうあきろう)
伊東内科医院長

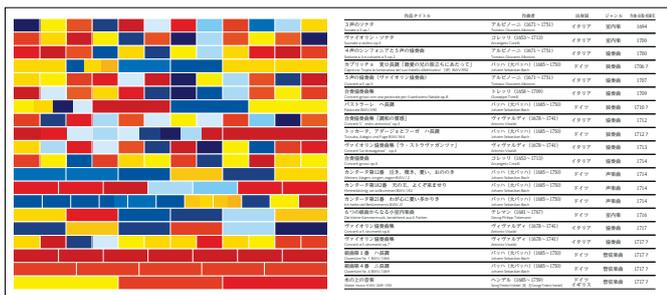
- 判型:220×200mm
- 頁数:172頁
- 製本:並製本糸綴じ
- 定価:5,400円(税込)



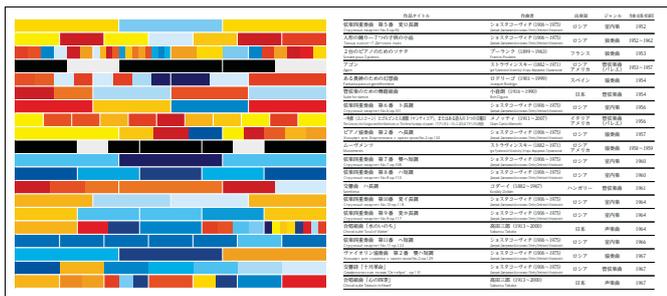
データベース化したCDを付属

本書は、古今東西の音楽家が作曲した曲を、「色」で表現した試みである。ひとつには、数時間にも及ぶオペラなどを含めて、一つの曲を一目（一瞬）で経験したい、見たいとの思いからである。（調性）音楽はハ長調やイ短調など合計24種類の調性でできていて、それぞれに一つの「色」を決めて、その曲の調性の移り変わりを「色」で表した。また、作曲、出版、初演の年の順に年表にし、それをそのまま「音楽史」と考えた。

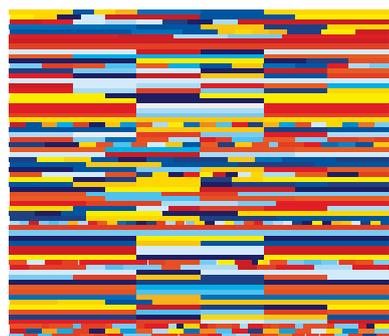
年末にわが国でよく演奏されるベートーヴェンの交響曲第9番二短調「合唱付き」作品125（いわゆる第九）が、1824年ウィーンのケルントネル門劇場で初演されている。その前年にはロッシーニ



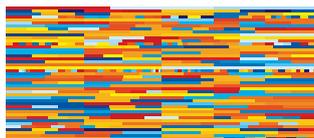
1694年～1717年に作曲された作品を色で表現



1952年～1967年に作曲された作品を色で表現



バッハの作品を色で表現



ショパンの作品を色で表現



ヴェルディの作品を色で表現

※本誌の表紙は、モーツァルトの作品を色で表現。

のオペラ「セミラーミデ」が、ヴェネツィアのフェニーチェ劇場で初演され、シューベルトの三大歌曲集の一つ「美しい水車屋の娘」が作曲されている。このように音楽作品を経時的にとらえて、音楽に接することは今までは少なかった。

更に、1821年には、ドイツで活躍する病理学者ウィルヒョーが現在のポーランドで生まれ、ロシアでは「罪と罰」、「白痴」で知られるドストエフスキーが誕生する。

出来上がった「色」のページ（左）は、それだけでも一つの絵画と観ることも、現代アートと感ずる人もあるだろう。たとえば、オリンピックの競技場の壁画や、ネクタイやTシャツのデザインなどとしても通用するだろう。大作曲家は音楽家であると同時に画家でもあったのである。大作曲家たちが創った色彩豊かな音楽の世界へ案内しましょう。



第2回 武蔵野美術大学校友会 長崎支部展

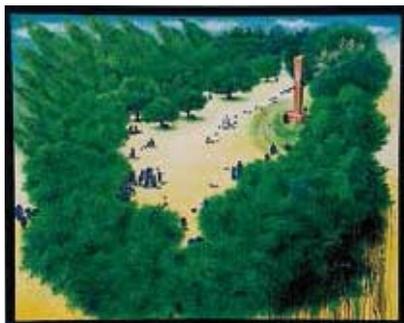
2017年 3月15日(水)～20日(月・祝) 10時30分～18時まで
武蔵野美術大学卒業生の長崎在住者による第2回校友会長崎支部展を開催いたします。昨年は初めての開催で、如何なる展覧会になるか不安のスタートでしたが、予想を上回る多くのご来場をいただき、誠にありがとうございました。支部員の構成は、学部・短大・通信制などがあり、また専攻も美術科、デザイン科、建築科など多岐にわたっています。今回も、支部員相互の刺激となり個々の研修につながればとの思いです。皆様にご高覧賜り、ご指導いただければ幸いに存じます。ご来場をお待ちし、ご案内申し上げます。



藤原正孝



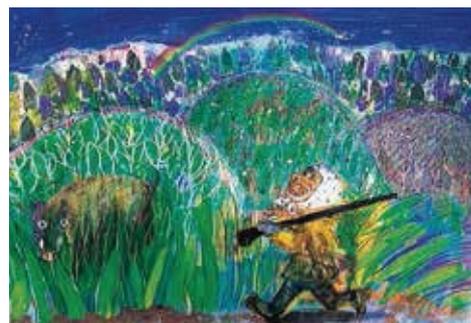
永野映子



小林美佐



大串みどり



石橋由子

昭和堂ギャラリー
Showado Gallery KOFU

好風

入場
無料

TEL.095-821-1240
FAX.095-823-8740

〒850-0875 長崎県長崎市栄町6-23 昭和堂ビル2F

<http://www.showado.co.jp>

※駐車場がございませんので、付近の有料駐車場をご利用ください。
※展示会は都合により変更の場合もございますので事前にご確認のうえ、ご来場お願い申し上げます。



あなたの想いを 本にしませんか

「ゆるり」とは、囲炉裏の意味。
囲炉裏を囲むように、皆さんで集まっていただけの空間に…
との願いが込められています。
和の雰囲気を感じられる空間で、ゆっくりゆるりと、
本づくり談義に花を咲かせてみてはいかがでしょうか。



2017年 年齢早見表付き 自分史のススメ



5名の方へ
プレゼント!!

下記ゆるり宛にハガキにて
お申込みください

自費出版サロン
ゆるり

TEL.095-828-1790

FAX.095-823-8740 <http://www.showado.co.jp>
〒850-0875 長崎市栄町6-23 昭和堂ビル2F

本づくりと展示会同時にできます!
貸ギャラリーお申し込み受付中

みのり会で一緒に働きませんか

社会福祉法人 みのり会

〒850-0908 長崎市十人町1番7号

TEL 095-822-1092

FAX 095-822-1823

E-mail honbu2@minorikai.or.jp

URL: <http://www.minorikai.or.jp/>



保育所

- ◎保育所 長与保育園
- ◎保育所 めぐみ保育園
- ◎保育所 のぞみ保育園
- ◎保育所 わかば保育園
- ◎保育所 道の尾保育園
- ◎放課後児童健全育成事業
ながよっ子クラブ

障害関係

- ◎福祉型障害児入所施設 みのり園
- ◎障害者支援施設 三和みのり園
- ◎障害者支援施設 第二みのり園
- ◎多機能型事業所 平山友愛園
- ◎共同生活援助事業 グループホーム友愛
- ◎共同生活援助事業 グループホーム明心
- ◎共同生活援助事業 グループホームまどか
- ◎障害児通所支援事業所 みのり会キッズ・コム
- ◎障害児通所支援事業所 みのりっ子クラブ
- ◎障害者生活支援事業 みのり会生活支援センター
- ◎相談支援事業所 みのり

救護施設

- ◎救護施設 あいこう園

老人関係

- ◎養護老人ホーム あいぎ荘
- ◎訪問介護事業所 あいぎ荘
- ◎特別養護老人ホーム 三和荘
- ◎通所介護事業所 三和荘
- ◎居宅介護支援事業所 三和荘

児童養護

- ◎児童養護施設 太陽寮

